

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 主体的な学び、豊かなまごころ、健やかな体を持ち、地域とつながりよりよい社会と未来の創り手となってたくましく生きる児童を育成する。

目指す児童像 ・進んで勉強する子ども（かしこく：知）
・思いやりのある子ども ・喜んで働く子ども（なかよく：徳）
・健康で明るい子ども（たくましく：体）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

今年度のテーマ 「みんなが 楽しく まごころ日本一」
～ 学ぶ楽しさ、仲間がいる楽しさ、居がいのある学校づくり ～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 城山中央小学校の歴史と伝統を踏まえ、長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し、その発展に努める。
- (2) ○児童の主体的な学びを学校経営の中核に位置付け、生きてはたらく知識技能及びそれらを活用する力を育成する。
- (3) ○まごころ教育等の充実により、規範意識、他者を思いやる豊かな心を育み、活動の源となる体力の向上に努める。
- (4) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに、家庭・地域の教育力を生かした教育活動を充実させ、地域に根ざし開かれた「地域に信頼され、地域の核となる、活力あふれる城山中央小学校」の実現に努める。
- (5) 高い指導力と専門性を身に付け、強い使命感や情熱を持って授業力・学級経営力を向上させるとともに、和と協働の精神を大切にして、チームとしての学校の力を高めていく。
- (6) 校内の業務の適正化を図るとともに、ワークライフバランスを意識しながら職務を遂行できるようにする。
- (7) ○城山学校園教育ビジョンにのっとり、小中一貫教育を推進するとともに、学校園内各小中学校との連携による地域一体の教育を推進する。

【城山地域学校園小中一貫教育ビジョン】 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～

学校園内小中学校が連携し合い、地域の教育力を生かしながら、「自他を尊重し、郷土に愛着を持ち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

【城山地域学校園小中一貫教育スローガン】 合言葉は「愛」

みんなで育てよう！自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山っ子

4 教育課程編成の方針

日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び施行規則、小学校学習指導要領、栃木県「幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校指導の指針」、「第2次宇都宮市学校教育推進計画」、「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」、「令和3年度指導の重点」の示すところに従い、本校教育目標達成のための学校経営方針や努力点、学校評価の反省を十分踏まえて編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 ○学ぶ楽しさ、仲間がいる楽しさ、居がいのある学校づくりの推進

【学 習 指 導】 互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成

【児 童 生 徒 指 導】 ○思いやりの心を持ち、決まりやルールを守り、主体的に行動できる児童の育成
～ 児童と児童、児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して ～

【健康（体力・保健・食・安全）】 自分の体に関心を持ち、健康や安全に留意しながら目標に向かって意欲的に運動する児童の育成
～ 活動量を確保した体育授業の実践や体を動かしたくなる体育的環境の整備 ～

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価：↑・↓は前年度との比較 (矢印なしは1%未満の変化のもの)												
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 基礎・基本の確実な定着を図る。 ・朝の学習の時間における指導内容の充実 ・算数における習熟度別学習等の工夫 ・話の聞き方や発表の仕方などの徹底 ・「城央小の学習のきまり」に基づいた <u>基本的な学習態度の徹底</u> ② 児童の学習意欲を高め、共に学び合う授業の展開を図る。 ・興味・関心を高めるための課題提示や活動の内容の工夫 ・進んで話し合う活動や学び合いの場の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>92.0%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.9%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>↓</td></tr></table> しっかりと話を聞いて取り組んでいる児童が多かったが、発表する児童に偏りがあった。 【次年度の方針】 ・より一層学業指導に取り組むことで、発表しやすい発問や雰囲気づくりを心掛ける。	児童	92.0%	↓	保護者	88.9%	↓	地域住民			教職員	95.7%	↓
	児童	92.0%	↓													
	保護者	88.9%	↓													
地域住民																
教職員	95.7%	↓														
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 一人一人を大切にする人権教育を推進する。 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ② 望ましい集団・居がいのある学級づくりに努める。 ・学級活動や「みんなで遊ぶ日」の時間の工夫と充実 ・縦割り班活動の工夫と活性化 ・状況に応じた言葉遣いの励行	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>91.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 全体的に、肯定的回答の割合が高かった。 【次年度の方針】 ・教職員は児童一人一人に目を配り、互いのよさを認め合う場をさらに状況に合わせて設定し、楽しい学校・居がいのある学級づくりを継続して推進するよう努める。 ・問題が生じた場合は、学校全体で問題を共有し、組織的に対応していく。	児童	91.1%	↓	保護者	96.2%	↓	地域住民	100%	↑	教職員	100%		
児童	91.1%	↓														
保護者	96.2%	↓														
地域住民	100%	↑														
教職員	100%															
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① <u>基本的な生活習慣と規範意識の育成に努める。</u> ・生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施 ・「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導 ② <u>家庭・地域・関係諸機関と連携を図る。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>85.9%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.3%</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 日々の教育活動を通して、基本的な生活習慣と規範意識の育成に努め、児童・教職員の肯定的回答が数値目標を上回ったが、意識が低くなる傾向が見られる。 【次年度の方針】 ・「城央小のよい子」をベースに、全職員の共通理解のもとで指導・支援にあたり、児童一人一人がきまりやマナーを守って生活できるよう、根気強く取り組む。	児童	85.9%	↓	保護者	94.3%		地域住民	100%	↑	教職員	100%		
児童	85.9%	↓														
保護者	94.3%															
地域住民	100%	↑														
教職員	100%															

目 指 す 児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 児童が主体的に取り組む「あいさつ運動」を推進する。 ・家庭及び地域協議会と連携した<u>地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開</u> ・小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・「おはようタイム」による意欲向上 ② 家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・ホームページでの周知	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.9%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>80.0%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.3%</td><td></td></tr></table> 学校で挨拶の習慣化に努めてきたことで、校内の改善が見られたが、家庭や地域に対しては、習慣付けの継続が必要である。 【次年度の方針】 ・様々な機会を通して、保護者に協力を呼び掛け、各家庭における挨拶の習慣化を推進する。教職員は、日々の生活場面での指導に根気強く取り組む。	児 童	93.9%	↑	保護者	79.1%	↓	地域住民	80.0%	↓	教職員	91.3%	
	児 童	93.9%	↑												
保護者	79.1%	↓													
地域住民	80.0%	↓													
教職員	91.3%														
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳科を核として、教育活動全体を通じた指導に努める。 ・折れない心・やり抜く心など心のたくましさに気付かせる授業の展開や実践の工夫 ・各種検定等、児童が目標を持って取り組める機会の確保 ② 児童の自己肯定感の育成に努める。 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.5%</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.0%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td></td></tr></table> 教育活動全体を通して、児童一人一人がそれぞれの目標を持って活動できるよう、指導に当たってきたため、児童・教職員ともに、数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の自己肯定感がさらに高まるよう、児童が互いに認め合う場を設定し、教職員が認め励ます指導に取り組んでいく。	児 童	91.5%		保護者	83.0%	↑	地域住民			教職員	95.7%		
児 童	91.5%														
保護者	83.0%	↑													
地域住民															
教職員	95.7%														

目 指 す 児 童 の 姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 健康の保持増進を図る。 ・自己の基本的な生活習慣を見直し、改善が図れるような指導の工夫と児童や保護者への啓発 ・養護教諭と連携した保健の授業の実施 ・委員会活動を通じた健康に関する啓発活動の実施 ② 各自の運動目標に向けた運動の推奨。 ・各種検定や全校で取り組む強化月間の実施 ・体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践 ・元気っ子健康体力チェックの活用 ・委員会活動を通じた体力向上に関する啓発活動の実施 ③ 「食に関する指導」の充実を図る。 ・学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施 ・児童の実態や発達段階に応じた指導の実施 ・「すこやか教育」の実施 ・「食育だより」等を活用した食への関心を高める工夫 ・委員会活動を通じた食に関する啓発活動の実施 ④ 日常指導における安全教育の充実に努める。 ・地域と連携した登下校時の安全確保 ・交通安全教室や各種避難訓練等の適切な実施	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.4%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.1% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、計画通りに実施できないものも多かった。保護者の肯定的回答については、約2%下がってしまったが、どの項目においても数値指標を上回る結果となり、一定の評価を得ることができた。 【次年度の方針】 ・全校体制で、保健教育、給食指導の共通理解を図り、各種たよりの有効活用を継続して行う。また、発達段階に合わせて、各教科、学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した授業を実施する。 ・運動の推奨については、体育の授業でのがんばりカード等の活用により、具体的な目標を持たせ、自分の健康や体力に関心を持たせる。また、元気っ子チャレンジ、ミニム等の目標も児童に意識させ、継続的に体力向上に取り組めるように支援を続けていく。 ・登下校については、地域と連携した登下校指導を継続していく。 ・健康で安全な生活について、日常生活の中で常時指導を続けていく。 ・感染状況に応じて対応をその都度を検討し、できる範囲で取り組ませていく。	児 童	93.4%	保護者	89.1% ↓	地域住民	100% ↑	教職員	100%
	児 童	93.4%										
保護者	89.1% ↓											
地域住民	100% ↑											
教職員	100%											
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 宮・未来キャリア教育の推進を図る。 ・年間指導計画の工夫改善 ・「宮・未来キャリア・パスポート」の活用 ・各教科・特別活動・総合的な学習の時間等との関連 ・家庭・地域・企業と連携した指導の充実 ② <u>地域学校園の重点目標を踏まえながら、小中交流を推進する。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.5%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.0% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td></tr></table> 各教科・特別活動・総合的な学習の時間等との関連を図ってきたため、児童の肯定的回答が数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答が昨年度よりは上がったので、引き続き、児童が頑張ったことや取り組めたことを、宮・未来キャリア・パスポートを活用し、保護者にも認め励ましてもらう機会を設けるなど、家庭と連携を図りながら取り組んでいく。	児 童	91.5%	保護者	83.0% ↑	地域住民		教職員	95.7%	
児 童	91.5%											
保護者	83.0% ↑											
地域住民												
教職員	95.7%											

目 指 す 児 童 の 姿	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 外国語科や外国語活動を推進し、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・外国語科や外国語活動の教材の充実・環境整備 ・コミュニケーション能力の育成を目指した言語活動の充実 ② 進んで英語を使ってコミュニケーションしようとする態度を醸成する。 ・外国語学習を補完する内容の充実 ・日常的なALTとの交流の機会	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>88.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>↓</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に配慮しながら、可能な範囲でペア・グループでの学習を取り入れたが、対話的な言語活動が十分とは言えなかった。 【次年度の方針】 ・外国語活動、外国語科の教材の工夫や環境整備に努め、更なる指導の充実を図っていく。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、コミュニケーション能力の育成を目指した言語活動の工夫・改善に努める。	児 童	88.3%	↓	保護者			地域住民			教職員	95.7%	↓
	児 童	88.3%		↓												
	保護者															
地域住民																
教職員	95.7%	↓														
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学習内容と宇都宮の良さの関連を図った指導の工夫に努める。 ・生活科・社会科・総合的な学習の時間（宇都宮学）や校外学習等における指導内容の工夫や改善 ② 児童が地元の大谷町を中心とした宇都宮の歴史・文化・伝統産業・特産物等についての知識や理解を深められるよう、授業の際に地域についての内容を取り上げられるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>85.9%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>72.4%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>87.0%</td><td>↓</td></tr></table> 「460愉快だプロジェクト」などで親子で共に地域の魅力を学ぶ機会などを設定したことにより向上したと考えられる。 【次年度の方針】 ・社会や総合的な学習の時間を中心に宇都宮や地元・大谷の良さを知ることができる指導の充実を継続する。	児 童	85.9%	↑	保護者	72.4%	↑	地域住民			教職員	87.0%	↓	
児 童	85.9%	↑														
保護者	72.4%	↑														
地域住民																
教職員	87.0%	↓														
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① ICTの活用による授業の工夫をする。 ・デジタル教科書の活用 ・クロームブック・デジタル機器を活用した授業の展開 ・情報モラル教育に関する授業の展開 ② 学校図書館の整備・充実に努める。 ・学習内容の時期に合わせた関連図書の整備 ・市立図書館を利用した学級文庫や調べ学習用図書の充実 ② クロームブックを活用した指導や家庭学習の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>89.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.3%</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>↑</td></tr></table> 一人1台端末の導入により、ICT機器を積極的に活用した成果が上がりつつある。 【次年度の方針】 ・GIGAスクール構想の更なる推進を図るとともに、図書資料も有効的に活用できる場面を意図的に設定する。	児 童	89.2%	↓	保護者	74.3%		地域住民			教職員	100%	↑	
児 童	89.2%	↓														
保護者	74.3%															
地域住民																
教職員	100%	↑														

目指す児童の姿	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 社会福祉についての理解と関心を高める。 ・地域の高齢者や福祉施設との交流（まごころ会食・昔の遊び等） ・地域の福祉施設との交流（蒔蒔会） ② 高齢の学校支援ボランティアの方々への感謝の気持ちを育む。 ・感謝の気持ちを込めた日々の挨拶の励行 ・「地域の方への感謝の会」の実施	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響により、例年に比べ地域の高齢者と関わる機会が減ったため、数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・まごころ会食や低学年の昔遊び体験、地域の方への感謝の会などが感染症対策のため中止となったが、次年度以降、地域の高齢者への感謝の気持ちを直接伝える機会を設けていく。	児 童	91.1%	↓	保護者	96.2%	↓	地域住民	100%	↑	教職員	100%	
	児 童	91.1%		↓												
	保護者	96.2%		↓												
地域住民	100%	↑														
教職員	100%															
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 70%以上	① 環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・節電・節水・リサイクル活動の実施 ・「緑の少年団」活動を通した自然愛の醸成 ・各教科における関連学習の指導の工夫 ・日常生活の中でもSDGsを意識させる環境作り(掲示物) ② 防災教育の充実を図る。 ・土砂災害を想定した避難訓練の実施 ・自然災害を取り上げた学習内容の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>90.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>73.9%</td><td>↑</td></tr></table> SDGsという言葉が浸透し、児童・教職員共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、環境問題をはじめとするSDGsへの関心を高められるよう各教科における関連学習の指導を工夫する。	児 童	90.1%	↓	保護者			地域住民			教職員	73.9%	↑	
児 童	90.1%	↓														
保護者																
地域住民																
教職員	73.9%	↑														
B1 児童は、毎日家庭での学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、毎日、時間を決めて家庭学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 75%以上	① 家庭と連携して、学習習慣の確立を図る。 ・「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」に基づいた、発達段階に応じた宿題や自主学習の工夫 ・「学習習慣定着強化週間」の定期的設定 ・家庭学習の成果の評価と意欲を喚起するため、「学習習慣定着強化週間」の自主学習の欄に時間を記入する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>75.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.9%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>78.3%</td><td>↓</td></tr></table> 家庭学習に取り組んでいる児童は多いが、「毎日時間を決めて」というレベルにはまだ至っていない。 【次年度の方針】 ・学習習慣の定着のため、こまめな担任からの声掛けと学習内容の吟味、家庭への啓発を強化する。	児 童	75.1%	↓	保護者	68.9%	↓	地域住民			教職員	78.3%	↓	
児 童	75.1%	↓														
保護者	68.9%	↓														
地域住民																
教職員	78.3%	↓														

目指す児童の姿	B 2 児童は、本に関心を持ち、読書を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、楽しんで読書をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	① 読書活動の充実を図る。 ・必読書感想カードの実施・表彰 ・ボランティアや教職員による読み聞かせの実施 ・多読者賞の表彰 ・家庭と連携した家読の推進 ・読書リレー ・地区市民センターの利用方法の周知 ・絵本の国の整備 ・学校開放日に保護者への本の貸し出し ・読書週間を利用した読書量の確保	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>87.3% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>62.5% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> B 保護者の肯定的回答の割合が達成数値目標より 7.5 ポイント低い傾向にあるが、朝の読書やボランティアによる読み聞かせや読書リレーが実施でき、読書に親しむ機会を増やすことができた。 【次年度の方針】 ・読書の時間を確保するため、可能な範囲で形を変えて活動を実施できるよう、更に工夫していく。	児 童	87.3% ↑	保護者	62.5% ↓	地域住民		教職員	100%
	児 童	87.3% ↑									
保護者	62.5% ↓										
地域住民											
教職員	100%										
目指す学校の姿	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別支援学級の充実を図る。 ・個別の指導計画による指導の充実 ・学級との交流や連携を図った指導の推進 ② 特別な教育的支援が必要な児童への対応に努める。 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした教育支援委員会の開催と共通理解 ・多様なニーズの理解と支援方法の明確化 ・「かがやきルーム」の有効的活用の工夫 ③ 通常学級における個別の指導計画を活用した個の指導の充実を図る。 ・学級における配慮児童の個別の指導計画の策定 ・ケース会議による指導方針・成果と課題の明確化	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7% ↓</td></tr></table> B 支援を要する児童に対する教育支援委員会を随時開くなど、組織的な対応をすることができた。また、かがやきルームにおける個に応じた支援の充実を図ることもできた。 【次年度の方針】 ・特別な支援を要する児童の実態や保護者のニーズを把握し、通常学級における特別支援もさらに充実させ、より適切な支援を行っていく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	95.7% ↓
	児 童										
保護者											
地域住民											
教職員	95.7% ↓										
学校の姿	A 14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を推進する。 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」の充実 ・いじめ根絶集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・週番活動による見守り体制の整備 ・潤いのある学校環境の整備 ・「さん」付けの呼び方の徹底 ② 家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・学校便りやホームページでの周知 ・道徳科の授業公開	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>97.7% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.9% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% ↑</td></tr></table> B 教職員は、いじめに対する危機意識を常に持って児童の指導にあたっており、児童も十分理解している。定期的なアンケートの実施や教育相談が充実したことも挙げられる。 【次年度の方針】 ・児童の日々の生活の様子を的確に把握することによって、いじめに結び付くような諸問題を早期に発見し、迅速に対応する。問題が起きた場合は、その都度記録をとり、必要に応じて指導の経過を保護者に伝え、家庭と連携しながら基本方針に沿って指導にあたる。	児 童	97.7% ↓	保護者	85.9% ↓	地域住民	100% ↑	教職員	100% ↑
	児 童	97.7% ↓									
保護者	85.9% ↓										
地域住民	100% ↑										
教職員	100% ↑										

目 指 す 学 校 の 姿	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 不登校・不適應等特別な教育的支援が必要な児童への対応に努める。 ・日常の観察・教育相談・Q－U調査等の実施による早期発見・早期対応 ・ケース会議等による支援方法の明確化 ・関係機関との連携と紹介 ② 児童の自己肯定感の育成に努める。 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底【A5②再掲】	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.7% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.2% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 教職員は、日頃から児童の様子を観察し、必要に応じて、児童支援委員会やケース会議を行い、学校全体で対応している。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、的確に児童の様子を把握することで、早期発見・対応に努め、家庭とも連携しながら児童一人一人に合った支援を行っていく。	児 童	96.7% ↓	保護者	89.2% ↓	地域住民		教職員	100%
	児 童	96.7% ↓									
	保護者	89.2% ↓									
地域住民											
教職員	100%										
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 外国人児童についての組織的な支援に努める。 ・全校での共通理解 ・必要な支援の検討・確認 ② 児童一人一人が、自分たちと異なる文化や言語等を認め合い、尊重できるような心の育成に努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7% ↓</td></tr></table> 教職員間で、共通理解が図れ、保護者に対しても必要に応じた対応がとれている。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、人権教育を通してながら、学校全体で共通理解を図りつつ、関係職員が適切に対応していく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	95.7% ↓	
児 童											
保護者											
地域住民											
教職員	95.7% ↓										
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、今の学校が好きです。」 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 適正な学校運営に努める。 ・創意と調和のある「子どもを生かす」教育の実践 ・学校評価を生かした保護者、地域と一体化した学校づくりの推進 ② 児童・保護者・教師・地域の思いを把握し、学校運営に生かす。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>88.7% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>98.0% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による様々な規制の中で、可能な限りの活動を実施してきたが、児童の達成数値目標は下回ってしまった。 【次年度の方針】 ・児童一人一人が楽しく学校生活を送れるよう、授業や学校行事、特別活動等の充実を図っていく。	児 童	88.7% ↓	保護者	98.0% ↑	地域住民	100% ↑	教職員	100%	
児 童	88.7% ↓										
保護者	98.0% ↑										
地域住民	100% ↑										
教職員	100%										

目指す学校の姿	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 学習指導の工夫・改善を図る。 ・計画的なモジュール学習の推進と見通しを持った授業の推進 ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・習熟度別学習や少人数指導・TT 指導等の効果的实施 ・学習内容定着度調査などの活用 ・かがやきルームの有効活用及び指導体制の充実 ・授業力向上のための校内研修の充実 ② 家庭・地域への広報を充実させる。 ・学校だより、ホームページ等による学習についての情報提供 ③ クロームブックを使った学習の紹介	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.7% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>78.8% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 授業やモジュール学習において、めあての提示・振り返りの徹底をするとともに、児童一人一人の学習状況を把握し、学習指導の工夫・改善を図った。 クロームブックを活用した授業の工夫・改善に努めた。 【次年度の方針】 ・更なるめあての提示・振り返りの充実とともに、クロームブックを活用した学習指導の工夫・改善を図り、児童にとってより「分かる授業」を目指したきめ細かな指導を図っていく。	児 童	96.7% ↓	保護者	78.8% ↓	地域住民		教職員	100%
	児 童	96.7% ↓									
	保護者	78.8% ↓									
地域住民											
教職員	100%										
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 和の精神を大切にし、職員が互いに助け合いながら一丸となって業務に取り組めるように工夫する。 ・学校の諸問題への組織的な対応 ・学校行事の準備・運営等への協力 ② 協働の精神を大切にし、日頃の業務について気軽に相談し、助け合える環境づくりに努める。 ・職員の得意分野を生かした組織づくり ・打合せやコミュニケーションを図る時間の確保	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% ↑</td></tr></table> 学校に関わる職員は、行事の準備等を協力して行っていた。また、様々な問題に対して相談し合って対応していた。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、気軽に相談できる環境づくりに努め、報告・連絡・相談を確実にやっていく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	100% ↑	
児 童											
保護者											
地域住民											
教職員	100% ↑										
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 校内の業務の適正化・効率化を図る。 ・業務内容の明確化 ・学校の組織運営や各種行事等の実施方法の工夫・改善 ・学習情報システム等の各種システムの効果的な活用の推進 ② 教職員一人一人の意識改革を図る。 ・出退勤打刻等による勤務時間を意識した働き方 ・担当業務の効率的な実施や見通しを持った計画的な処理	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.3%</td></tr></table> 学校業務の効率化については、教職員の肯定的回答が目標を上回っている。各種システムの活用や行事の精選などが行えていた。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、行事の精選や日課の見直しなど、全体で随時検討しながら考えていく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	91.3%	
児 童											
保護者											
地域住民											
教職員	91.3%										

目 指 す 学 校 の 姿	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 小中の相互乗り入れ授業を計画的に実施する。 ・年間を見通した計画の作成と実践 ・成果や課題の共有化 ② 小中合同の行事や活動に積極的に取り組む。 ・小中合同のあいさつ運動の推進 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ ③ 地域学校園組織の活性化を図る。 ・分科会の持ち方の工夫 ・地域学校園内の情報の共有化	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>82.9%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.3%</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td>92.9%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7%</td><td>↑</td></tr></table> コロナ禍でも、乗り入れ授業やあいさつ運動の活動を工夫して、実施した。 【次年度の方針】 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据えながら、地域学校園の小中学校と協力・連携し、継続して取組を行っていく。	児 童	82.9%	↑	保護者	90.3%		地域住民	92.9%	↓	教職員	95.7%	↑
	児 童	82.9%	↑												
	保護者	90.3%													
地域住民	92.9%	↓													
教職員	95.7%	↑													
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域人材の協力や企業・団体等の専門性を生かした学習を推進する。 ・「城央小町の先生」の年間指導計画への位置付け ・小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施 ・家庭・地域・企業・団体等と連携した活動の広報活動の工夫・充実 ② 学校支援ボランティアの有効活用の推進 ・授業への支援・協力 ・学校環境整備や見守り活動	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.9%</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.2%</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>↑</td></tr></table> 地域人材の協力により、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分にし、農園活動や城央小町の先生による学習教室を実施した。 【次年度の方針】 ・状況を見据えながら、今後も地域の教育力を活用したり、企業や団体等との連携を図ったりしながら、活動方法の工夫・改善に努めていく。	児 童	93.9%		保護者	92.2%		地域住民	100%		教職員	100%	↑	
児 童	93.9%														
保護者	92.2%														
地域住民	100%														
教職員	100%	↑													
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域人材の協力や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・「町の先生」の活用 ・各育成会や地域行事への積極的な参加 ・小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施 ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動の工夫・充実 【A22①再掲】 ② 学校支援ボランティアの有効活用の推進 ・校外体験学習や授業への支援・協力 【A22②再掲】	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.9%</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.2%</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>↑</td></tr></table> 学習活動の充実を図るための地域人材の活用を推進することができた。できる範囲で、企業や地域ボランティア団体と連携し、出前授業を実施することができ、児童の豊かな心の育成に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・学習のねらいを意識し、学習効果がより高まるような地域人材の活用を計画的に進め、豊かな心を持った児童の育成に努めていく。	児 童	93.9%		保護者	92.2%		地域住民	100%		教職員	100%	↑	
児 童	93.9%														
保護者	92.2%														
地域住民	100%														
教職員	100%	↑													

目 指 す 学 校 の 姿	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 校内各所の安全点検を行い、改善や修繕に努める。 ・毎月の安全点検の実施 ・危険箇所等の迅速な報告・修繕 ② 危機管理マニュアルの整備と共通理解を図り、不測の事態に備える。 ・AED研修の実施 ・アレルギー対応（エピペン研修）研修の実施 ③ 感染症防止対策の実施	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.2%</td><td>↓</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 安全な環境づくりに関する取組については、多くの肯定的回答を得ることができた。この数値を維持できるよう、次年度も保護者や地域と連携を図りながら、実施していきたい。 【次年度の方針】 ・学校・保護者・地域・関係機関が相互連携して、安全で安心な学校づくりを推進する。また、迅速な対応や多方面からの情報の収集によって、保護者や地域住民の信頼を得られるように努めていく。	児 童				保護者	93.2%	↓		地域住民	100%				教職員	100%			
	児 童																					
	保護者	93.2%	↓																			
地域住民	100%																					
教職員	100%																					
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① ICTの活用による授業の工夫をする。 ・パソコン室の効果的活用 ・デジタル教科書の活用 ・クロームブック・デジタル機器を活用した授業の展開 ・情報モラル教育に関する授業の展開 【A10①再掲】 ② 学校図書館の整備・充実に努める。 ・学習内容の時期に合わせた関連図書の整備 ・市立図書館を利用した学級文庫や調べ学習用図書の充実 【A10②再掲】 ③クロームブックを活用した指導や家庭学習の充実 【A10③再掲】	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>89.2%</td><td>↓</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.3%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>↑</td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 クロームブックでの調べ学習やまとめ、ジャストスマイルドリルの活用など、積極的にICT機器を活用する学習に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・学習場面での調べ学習やまとめ・発表など、児童の学びが深まるように、クロームブックのより効果的な活用の充実に努めていく。	児 童	89.2%	↓		保護者	74.3%			地域住民				教職員	100%	↑				
児 童	89.2%	↓																				
保護者	74.3%																					
地域住民																						
教職員	100%	↑																				
B3 教職員は児童一人一人の良さや努力を見取り、認め励ます指導を行っている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 児童の自己肯定感の育成に努める。 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・ほめ励ます指導の徹底 【A5②再掲】 ② 児童一人一人を認め励ます指導を推進する。 ・職員間の情報交換の推進・機会の確保 ・保護者へ児童の良さ等の報告と信頼関係づくり	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.1%</td><td>↓</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.1%</td><td>↑</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td><td></td></tr></table> 全体的に肯定的回答が高かった。教職員は、帰りの会や掲示物などを工夫した学級経営を通して、児童のよさを認め合う場を持つよう取り組んだ。また、月に1度の会議の場で情報交換を行い、学校全体で児童一人一人に目を向けるよう取り組んできた。 【次年度の方針】 ・次年度も、学校全体で児童一人一人の自己肯定感の育成に努めていく。	児 童	91.1%	↓		保護者	94.1%	↑		地域住民				教職員	100%					
児 童	91.1%	↓																				
保護者	94.1%	↑																				
地域住民																						
教職員	100%																					

本校の特色・課題等	B 4 学校は、「自然とのかかわり」・「人とかかわり」の両面から児童一人一人の主体性と豊かな心を育む「まごころ教育」の推進に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、『自然とのかかわり』・『人とかかわり』の両面から児童一人一人の主体性と豊かな心を育む『まごころ教育』を推進し、特色ある学校づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 「自然とのかかわり」に関する教育活動の工夫・充実を図る。 ・まごころ広場等での、自然とのふれあいを生かした体験活動 ② 「人とかかわり」に関する教育活動の工夫・充実を図る。 ・福祉施設や地域高齢者との交流 ・縦割り班活動による人づくり ・地域教育ボランティア「城央小町の先生」の活用	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.0% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分にし、縦割り班活動や城央小町の先生による学習教室を実施した。 【次年度の方針】 ・状況を見据えながら「自然とのかかわり」や「人とかかわり」に関するまごころ教育活動の工夫・充実に努める。	児 童		保護者	96.0% ↑	地域住民	93.3% ↓	教職員	100%
	児 童											
保護者	96.0% ↑											
地域住民	93.3% ↓											
教職員	100%											
B 5 学校は、保護者や地域住民と連携を図りながら、安全で安心な学校づくりに努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、保護者や地域住民と連携を図りながら、安全で安心な学校づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 危機管理意識の高揚を図る。 ・定期的な登校・下校指導の実施 ・避難訓練、防犯教室の実施 ・AED研修 ・アレルギー対応（エピペン研修） ・スクールサポーターやまごころサポーター等との連携 ・子ども110番の家の確認及び更新	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>98.1% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 安全で安心な学校づくりへの取組は、一定の評価を得ることができた。保護者や地域と連携を図りながら取り組んできた成果と考えられる。 【次年度の方針】 ・学校・保護者・地域住民・関係機関が相互に連携し、安全で安心な学校づくりを推進する。また、多方面から情報を収集したり、迅速に対応したりすることによって、保護者や地域住民からの信頼を得ようとする。	児 童		保護者	98.1% ↑	地域住民	100%	教職員	100%		
児 童												
保護者	98.1% ↑											
地域住民	100%											
教職員	100%											

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答が、児童は1.3ポイント上昇したが、保護者は7.4ポイント、地域住民は5.7ポイント下降した。校内で挨拶の習慣化に努めてきたことで、児童の挨拶の意欲向上を図ることができた。今後は、保護者や地域住民にも協力をはたらき掛け、家庭と地域における挨拶の習慣化を推進していく。

・A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」については、すべての項目で85%以上の高い肯定値を示している。健康については、保健だよりの発行、歯磨きや姿勢についての指導などの啓発活動を行ってきた。手洗い、換気の徹底、ソーシャルディスタンスをとるための工夫など、継続して新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にも力を入れてきた。歯磨きや給食の飛沫飛散防止対策も含め、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に学校全体として取り組み、徹底を図ることができた。食育では、食育だよりの発行、掲示コーナーの積極的な活用、栄養士による発達段階に合わせた指導などを通して、食への関心を高めることができた。体育では、月間の重点目標を設定し、3密にならない工夫をしながら体力作りに取り組んできた。各種頑張りカードを活用して目標に向かって意欲的に体力向上に取り組むことができた。安全では、一斉下校における下校指導や地震、竜巻の避難訓練などを通して、安全教育の充実を図ることができた。これらの取組を可能な範囲で今後も継続して実施し、健康で安全な生活ができるように指導していきたい。

・A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」の肯定的回答が、児童・保護者において上昇している。「460愉快だプロジェクト」などで、親子で共に地域の魅力を学ぶ機会などを設けたことにより、肯定率が向上したと考えられる。

・A11「児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」の肯定的回答が、児童4.5ポイント、保護者1.1ポイント下降した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、高齢者と関わる機会が減ってしまったことが原因と考えられる。次年度以降、まごころ会食や低学年の昔遊び体験、地域の方への感謝の会などを計画的に進め、地域の高齢者への感謝の気持ちを直接伝える機会を設けていけるようにする。

・B1「児童は、毎日家庭での学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」の肯定的回答が、児童・保護者、教職員共に昨年度より下降した。家庭学習に取り組んでいる児童は多いが、「毎日時間を決めて」というレベルにはまだ至っていない。学習習慣の定着のため、引き続き担任からのこまめな声掛けと家庭への啓発を強化していく。

・児童は、「城央小学習のきまり」を意識し、クロームブックを積極的に活用して学習活動に取り組んでいる。今後も児童の学ぶ意欲をさらに高め、多様な社会の変化に対応できる学力を確実に身に付けさせるために、分かる授業の展開やきめ細やかな指導の充実を図っていくようにする。

7 学校関係者評価

○A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の保護者・地域住民の肯定的回答の割合が昨年度より低下している。地域ぐるみで「あいさつ運動」に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域の自治会等への回覧制限などもあり、例年のように広く呼び掛けることが困難な状況であった。今後も可能な限り学校と家庭・地域が連携しながら取り組んでいくことで、地域ぐるみでよい習慣が根付いていけるとよい。

・地域住民への挨拶については、児童によって個人差があるのも事実であるが、挨拶をする対象の判断が児童には難しいということが要因とも考えられる。

・A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」の肯定的回答の割合は、すべての数値指標を上回っている。毎年の課題となっている下校に関しては、同学年で一緒に帰ることが多いためか、途中で列が乱れて密な状態になってしまう班が見受けられる。そのためまごころサポーターを中心に登校時だけでなく、可能な限り下校の時間に合わせて歩道に立ち、児童に声を掛けて安全を確保するようにしている。

- ・登下校の見守りのさらなる充実を図るために、地域への呼び掛けを行っていきたい。

- ・健康面に関しては、マスクや手洗いを中心に児童の意識はさらに高まってきている。

- ・A17「学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」の保護者と地域住民の肯定的回答の割合は上昇しているが、児童の肯定的回答の割合は数値指標の90%を下回っている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で楽しみにしている行事等がカットされたり、規模が縮小されたりしている影響があるのかもしれない。これまで以上に児童の声を聴きながら教育活動を工夫して行ってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

前年度に続き、コロナ禍の中、感染拡大防止に配慮しながら教育活動を展開していく毎日であった。そのような状況の中でも学校・保護者・地域で連携を図り、協力しながら「子どもたちのためにできること」を考え、様々なことに取り組んできた。評価項目についての肯定的回答の割合については、ポイントが上昇したものの下降してしまったもの様々であるが、コロナ禍の中でのこれまでの取組を振り返り、修正・改善を加えながら実施してきた取組をさらに充実させながら再構築していくことで、これまで以上に地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進していきたい。そのために、下記のような3つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させていく。

